



## 「夢を見る力をもっと」

校長 伊東 康孝

春の訪れとともに、希望あふれる門出の季節を迎えました。本日、富山県立高岡高等支援学校を巣立つ20名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、これまで温かく見守り、支え続けてこられた保護者の皆様にも心からお祝いと感謝を申し上げます。

本校では、12年前の開校以来「挑戦」「自立」「共生」を校訓に掲げ、生徒一人ひとりが自分らしく成長できる場を築いてまいりました。日頃の学習はもちろん、体育大会や文化祭、職場見学旅行などの学校行事を通じて、仲間と喜びや感動を共有し、協力することの大切さを学んだことと思います。また、校外での就業体験で培った実践的な学びを通じて、社会で求められる力を身につけ、自立への一歩を踏み出しました。これらの経験や仲間との絆は、これからの人生を支える大切な力となることでしょう。

令和7年の今、世界は急速に変化し、予測がつかない時代を迎えています。世界的な異常気象、戦争・紛争と国際情勢の不安定さ、AIとネット社会、そして、いつ訪れるか分からない災害…。しかし、どのような状況であっても、皆さんには決して変わらない「普遍的なもの」を心に刻んでほしいと思います。決して変わらないもの。それは、「夢」です。夢を見る力、それは無限です。どんなに環境が変わっても、自分が大切にしたいものを見失わなければ、道は必ず拓けます。挑戦を恐れず、経験を糧として自立の道を歩み、共生の心をもって周りと助け合うことで皆さんはこれからの社会を力強く生き抜いていけると信じています。

卒業生の皆さん、そして在校生の皆さんの未来が、夢と希望と喜びに満ちたものとなることを心より願っています。

**1学年 社会見学**

晴天に恵まれた11月8日(金)、富山市へ校外学習に出掛けました。

富山県庁、防災危機管理センター、県議会議事堂、富山市役所レストラン・展望台、富山市科学博物館・プラネタリウムを見学・体験しました。富山県の歴史、文化、政治、産業について、また公共施設や公共交通機関の役割や利用の仕方について学ぶことができました。

帰校後はグループごとにまとめ、紙上発表を行いました。見学先で説明を聞いたり、質問やメモをとったりする態度について各施設で褒めていただき、充実した社会見学となりました。



県議会議事堂



防災危機管理センター

**保健集会**

12月6日(金)、保健委員会主催の保健集会が開催されました。

「感染症から守ろう心と身体」をテーマに保健委員が企画した雑巾掛けリレーやクイズで、寒さも忘れる白熱した時間となりました。

**球技大会**

12月20日(金)、体育委員会主催の球技大会が開催されました。当日は、委員会活動での準備や練習が生かされ、大会はスムーズに進みました。「ナイス!」「ドンマイ!」「惜しいよ!」



など試合のたびに各クラスの絆が深まる言葉が飛び交い、心温まる楽しい活動となりました。

## 受賞者報告

室井滋のしげちゃん☆おはなしラジオ

図画・作文コンクール2024

FMとやま賞 幸地 奏(3年)

令和6年度生徒図書委員表彰 幸地 奏(3年)

令和6年度高体連表彰 木村 隆永(2年)

## 全国障害者スポーツ大会「2024SAGA」(10月25日～28日)

佐賀県で開催された全国大会に、2年の木村さんが富山県代表選手として、立幅跳と100mの2種目に出場しました。すべての競技で自己記録を更新し銅メダルを2つ獲得しました。部活動や強化練習会の成果を発揮し、県内外の選手と交流できたことは、とても良い経験になったと思います。



## 令和7年度当初の行事予定

4月8日(火) 始業式、入学式

5月2日(金) 学習参観、PTA総会、学年懇談会、携帯電話安全教室(保護者向け)

## 1年間を振り返って(学校総合評価)

保護者の皆様、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今年度の重点課題(アクションプラン)への取組を含め、全12項目で「かなり思う」「やや思う」が90%以上であり、本校の教育活動について概ね満足いただいていると捉えております。また、いただいたご意見について検討し、改善できるところについては対応してまいります。

今年度のアクションプランへの取組状況と評価は次の通りです。

項目	取組状況	委員の意見	評価
【学習活動】 キャリア・ パスポートの 活用	① 授業の実施・概要の作成について ・主に担当が学級活動で「キャリア・パスポート」を活用した授業を行い、実践概要をシートに記録した。 ・実践概要を集約し、校内で共有した。 ・保護者に懇談会で「キャリア・パスポート」を提示しながら、キャリア教育の取組状況と生徒の様子や変容を説明した。	・「自己理解」は、3年間を通して学ぶ必要がある。就労を継続できる要因の一つに「自己理解(障害受容)」が挙げられる。	A
	② 研修会の実施、様式の検証・改善について ・独立行政法人教職員支援機構のキャリア教育に関する研修動画を全教員で視聴し、「キャリア・パスポート」活用に関する意見を集約した。 ・「キャリア・パスポート」活用に関するアンケートを生徒に実施した。 ・校内研修会では、生徒及び教員アンケートの結果を基に様式を検証した。また、グループ協議では「各学年で目指す生徒の姿」について話し合い、本校が目指す段階的且つ系統的なキャリア形成について共通理解を図った。	・卒業はゴールではなくスタート。生涯を通して円滑に社会生活を送るためにも、卒業後の支援を行う保護者や関係機関への引継ぎと連携は大切である。	A
【情報】 ICTを用いた 業務改善の 促進	① 会議資料のペーパーレス化 ・ペーパーレスにより担当者の机上で業務が完結し、業務改善が進んだ。 ・「すぐに見られない」など、徐々に紙に戻す職員もおり、各自のやりやすい方法を選択していた。 ・改善に向けた意見を取り入れて、しおり機能、複数ページ表示機能などを行った。 ・今後は、iPadの管理の仕方を検討する。	・ペーパーレス化は単に紙量減というより、仕事の仕方を考え方から変える必要がある。変化に対応しにくい人へのサポートが、お互いのコミュニケーションにもつながる。	A
	② 成績処理システムの構築 ・ICT支援員の協力を得て本校の成績処理業務の校務支援システムへの移行がマッチしないことを確認した。 ・試行錯誤、リンク等の動作確認、試用をへて、次年度から運用できるシステムを構築した。 ・実情に合わせて既定内規を変更した	・メリットとデメリットを把握し、目指すべき目標を明確にしながらか進めることが大事である。	A

※ 詳細については、学校HPをご覧ください。